

浜の活力再生プラン

1 地域水産業再生委員会

| | |
|------|--------------------------------------|
| 組織名 | 千葉県地域水産業再生委員会 銚子・九十九里地区部会 |
| 代表者名 | 銚子・九十九里地区部会長 坂本雅信（銚子市漁業協同組合 代表理事組合長） |

| | |
|-----------|--|
| 再生委員会の構成員 | 銚子市漁業協同組合、海匠漁業協同組合、九十九里漁業協同組合、 銚子市、旭市、匝瑳市、横芝光町、山武市、九十九里町、大網白里市、 白子町、長生村、一宮町、千葉県漁業協同組合連合会、 千葉県銚子水産事務所、千葉県勝浦水産事務所 |
| オブザーバー | 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 神栖拠点、 千葉県水産総合研究センター |

※再生委員会の規約及び推進体制の分かる資料を添付すること

| | |
|-----------------------|--|
| 対象となる地域の範囲 及び漁業の種類 | 地域：九十九里漁業協同組合管内（九十九里町、横芝光町、 山武市、大網白里市、白子町、長生村、一宮町） 漁業の種類：中型まき網漁業 1経営体（2か統） 貝桁網漁業 32経営体（32隻） 漁業者数：117名 以上の他、令和4年度から新たに、いわし船びき網1経営体（1隻） が操業を開始する予定 |
|-----------------------|--|

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

| |
|--|
| <p>九十九里地域は、太平洋に面した全長約 66 kmの長大な砂浜海岸を有し、江戸時代に地びき網によるマイワシやカタクチイワシなどのイワシ漁が盛んとなり、明治時代に改良型あぐり網漁が発案・導入されるなど、古くからイワシ類を対象とした漁業と水産加工業が盛んな地域である。</p> <p>また、広大な遠浅の砂浜海岸は、チョウセンハマグリ、ダンバイキサゴなど砂浜性貝類が豊富である。</p> <p>まき網漁業は、主に片貝漁港（九十九里町）に水揚げし、令和2年のまき網漁業の水揚量は約3,889千トン、金額は約2億5千万円となっている。漁獲物であるイワシ類は資源量の変動が大きく、平成20年の水揚量は約9,145千トン、金額は約4億4千万円と近年は著しく漁獲量が減少している。九十九里地区のまき網漁業の存続と経営基盤の強化を図るため、平成5年に九十九里まき網漁業生産組合を設立し協業化に取り組み、現在は2か統（2艘まき）の操業となっている。船団</p> |
|--|

は船齢の高い船が多く、安全性の確保と作業性の向上、漁業コスト削減など効率的な操業体制の構築に向け、順次更新することが課題となっている。

また、小型船による貝桁網漁業は、まき網と並ぶ地域の中心的な漁業であり、小型漁船漁業者の多くは、貝桁網漁業を中心に、他にマダイ・ヒラメなどを対象とした小型底びき網漁業や固定式さし網漁業を営んでいる。貝桁網漁業では主にチョウセンハマグリを漁獲しており、近年は500トン以上の水揚げが続き、令和2年の水揚量は約562トン、金額は約4億3千万円となっている。当該漁業は、資源管理に取り組むとともに共同操業による効率化を図り、さらに、殻長5cm以上のチョウセンハマグリを「九十九里地はまぐり」として県が認定する千葉ブランド水産物の認定を平成24年に受け、地元市町村や流通関係者等と連携したPRに取り組むことで、ブランド化の推進や単価向上に努めている。

(2) その他の関連する現状等

九十九里漁協（以下単に「漁協」という場合は九十九里漁協を指す。）は、平成22年、経営基盤の強化を図るため、横芝光町から一宮町にかけての沿海6漁協の合併により設立され、関係する地域が2市4町1村と広域にわたっている。合併以降、経営の安定化を維持するため、大規模な施設整備を見合わせていたことから、荷さばき施設の屋根が老朽化により破損し、雨漏り等が発生しており、荷さばき作業に支障が生じる可能性が出てくるなど、生産基盤の整備を計画的に検討することが必要となっている。漁協は、平成27年から製氷事業を民間事業者へ委託していたが、漁業者からの要望により、平成30年度から貯氷施設を活用して角氷の販売事業を再開した。

また、九十九里地域で操業する近隣のまき網船10か統で、集団操業と漁場探索の効率化を目的として、九十九里集団操業指導調査船くろしおを運行し、操業前に漁海況情報を収集し、各船団がリアルタイムで情報を共有する取組を行っている。

さらに、漁協では、イワシ類の安定的な生産を図るため、令和3年度、漁協がいわし船びき網漁業の許可を取得し、自営事業として運営する方針とした。

一方、貝桁網漁業では、漁業者による資源管理、腰カッター採捕者との採捕期間の調整、船団毎の水揚げプール制による共同操業の実施に加え、小型貝の沖出し放流など増殖の取組を継続的に行い、資源の持続的な利用の維持に努めている。

また、九十九里浜は首都圏から近く、サーフィンや海水浴などの観光客も多く訪れる地域であるため、潮干狩り感覚でチョウセンハマグリを採捕する人もおり、密漁対策が課題となっている。

3 活性化の取組方針

(1) 基本方針

(1) 収入向上の取組

①漁業生産の安定

- ・ 正確な漁海況情報に基づく効率的な操業を維持するため、近隣のまき網経営体で連携して運用

している「九十九里集団操業指導調査船くろしお」の運営を維持する。

- ・イワシ類の安定生産を図るため、新たに「いわし船びき網漁業」を漁協の自営事業として運用を開始する。
- ・貝類資源の安定生産を図るため、輪番制による効率的な共同操業体制を維持する。
- ・貝桁網漁業においては、九十九里漁業資源管理計画に基づく取組、漁獲可能量の遵守及び地元関係漁業者との申し合わせによる「操業や水揚げ方法の自主管理」の実施等により資源を適切に管理しつつ、安定的な漁業生産を維持する。
- ・貝桁網漁業者は、「九十九里貝類資源管理指針」の課題を整理し、新たな指針を作成し、今後の資源管理の取組を高度化する。

②品質管理の向上

- ・コンテナバックの活用により高鮮度鮮魚の割合を増やす。
- ・卸売市場では、HACCP の考え方を取り入れた衛生管理に取り組み、品質の維持を図るとともに、市場作業の効率化に努める。
- ・ハマグリは舌切れ（足部を損傷した貝）が多くなる 9、10 月に貝桁の曳網速度を減速し、また、選別の徹底により割貝などの混入率を減らすことで、品質の向上を図る。

③消費拡大

- ・漁協の直売所である「おさかな新鮮大使」を活用し、片貝漁港に水揚げされた水産物の PR 販売を行い、産地としての認知度向上を図る。
- ・インターネット、地元広報紙や観光雑誌などの媒体を利用した情報発信及び飲食店での利用促進を図り、消費の増大を目指す。

④新規漁業就業者及び中核的漁業者等の確保と育成

- ・国及び県等の新規就業者対策事業を活用し、インターンシップの受け入れや新規就業者の確保、育成に取り組む。
- ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（漁船リース事業）及び競争力強化機器等導入事業等を活用し、中核的漁業者の育成を図る。

（2）漁業コスト削減の取組

①漁業生産の安定

- ・操業指導調査船くろしおからの正確な漁海況情報に基づく、効率的な操業を維持することにより、魚群探索のための燃料費を節減する。
- ・貝桁網漁業においては、共同操業、水揚物のプール制による効率的な操業を維持し、コストの縮減を図る。

②省エネ・収益向上型の漁船及び機器類の導入、省燃油活動

- ・国の水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業等を活用して、漁船船体や機関機器類の更新及び漁具等を導入し、操業の効率化、省力化と共に燃費の向上を図り、収益性の高い漁業経営体への転換を進める。
- ・定期的な船底清掃（付着物除去）、減速航行の徹底等により燃油使用量の削減を図る。

- ③協業化による経費の削減
 - ・まき網漁業において、漁具、資材等の共同購入・管理により、漁船の維持管理経費、漁具資材等に係る経費削減に取り組む。
- ④漁業経営セーフティネット構築事業の活用
 - ・燃油価格の高騰に備え、漁協は漁業者の漁業経営セーフティネット構築事業への加入を千葉県漁連等と連携して推進する。

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

- ・千葉県漁業調整規則：第 35 条（漁具又は漁法の制限及び禁止）、第 37 条（禁止区域等）
- ・九十九里漁業協同組合資源管理計画（まき網漁業）：休漁日の設定（日曜・祝日）、種苗放流（マダイ及びヒラメの種苗放流経費の負担）、
- ・千葉県資源管理方針八の 4 くらまぐろ（小型魚）の資源管理方針及び 5 くらまぐろ（大型魚）の資源管理方針に基づく漁獲総量の管理

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1 年目（令和 3 年度）所得向上率（基準年比）0 %

| | |
|--------------|--|
| 漁業収入向上のための取組 | <p>①漁業生産の安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、「九十九里集団操業指導調査船くろしお運営委員会」の事務局として運営委員会を開催し、適切な運営を行う。 ・中型まき網漁船は、指導調査船くろしおからの漁海況情報等を随時把握できる体制を維持し、効率的な操業に取り組む。 ・漁協は、新たに漁協自営事業としていわし船びき網漁業に取り組むために、機船船びき網漁業（いわし船びき網漁業）の知事許可を取得するとともに、事業の運営体制を整備する。 ・貝桁網漁業者は、輪番制による効率的な共同操業体制を維持する。 ・漁協及び中型まき網漁業者は、九十九里漁業協同組合資源管理計画に基づく取組や漁獲可能量を遵守し、資源管理に取り組むとともに、中型まき網漁業者は地元関係漁業者との申し合わせによる「操業や水揚げ方法の自主管理」に取り組むことで漁場秩序を維持し、イワシ類の生産量を維持する。 ・貝桁網漁業者は、「九十九里貝類資源管理指針」に基づくハマグリの資源管理の取組を高度化するため、課題を整理し、新たな指針を作成する。 <p>②品質管理の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、6 月の改正食品衛生法の施行に合わせ、市場に係る HACCP の考え方を取り入れた衛生管理マニュアルを作成し、設備の洗浄、適切な施氷による水産物の温度管理、使用水の検査等に取り組む。 ・中型まき網漁業者は、カタクチイワシをより多くコンテナパックに収納す |
|--------------|--|

| | |
|----------------------|--|
| | <p>るため、船倉への漁獲物の混載方法を検討し、高鮮度鮮魚の割合を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貝桁網漁業者は、9月と10月に曳網速度を抑えた操業を試験実施し、舌切れを抑えると同時に、船上及び陸上での選別を徹底し、割貝などの混入率を減らし品質の向上を図る。 <p>③消費拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、県が認定する「千葉ブランド水産物」について、既に認定を受けている「九十九里産地はまぐり」の認定期間満了に伴い、再認定を申請する。 ・漁協は、漁協の直売所「おさかな新鮮大使」において、取扱水産物の種類を増やし、販売量を増やす。また、新型コロナ対策を継続しつつ、HPにおける開店日等のお知らせや「地はまぐり」のレシピ等の配布により、認知度向上を図る。 ・漁協は、インターネット、地元広報紙や観光雑誌などの媒体を利用した情報発信を行い、イベント等で九十九里産水産物の認知度を高め、消費の増大を目指す。 ・漁協及び漁業者は、地元の小学校等と協力し、水産教室において地元の漁業や食べ方等を紹介することで、地元水産物への親近感を持ってもらう。 <p>④新規漁業就業者及び中核的漁業者等の確保と育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、千葉県、千葉地域漁業担い手確保・育成支援協議会（構成員は県水産課、県漁連、県教育庁、県漁業就業者確保育成センター）及び九十九里町と連携して、国及び県の研修事業を活用し、短期研修や長期研修を行うことで後継者を確保するとともに、新規漁業就業者が参入しやすい環境を整備し、着業を促進する。 ・漁協は、技術習得のための勉強会や他地区漁業者との意見交換等の漁業士会活動等を通じ地元の中核となる漁業者を育成する。 |
| <p>漁業コスト削減のための取組</p> | <p>①操業の効率化による経費節減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中型まき網の漁業者は、操業指導調査船くろしおからの正確な漁海況情報に基づく、効率的な操業を維持することにより、魚群探索のための燃料費を節減する。 ・貝桁網漁業者は、共同操業、水揚げ物のプール制による効率的な操業を維持することにより、燃料費他経費の縮減を図る <p>②省エネ・収益向上型の漁船及び機器類の導入、省燃油活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（漁船リース事業）等を活用して、漁船船体や機関機器類の更新及び漁具等を導入し、操業の効率化、省力化と共に燃費の向上を図る。 ・中型まき網漁業者は、操業の効率化に向け、次期船体等の検討を開始する。 ・漁業者は定期的な船底清掃（付着物除去と塗装）、船内積載物の整理、減速 |

| | |
|-----------|---|
| | <p>航行の徹底等を実施して燃油消費量を削減する。</p> <p>③協業化による経費の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> まき網漁業では漁具、資材等の共同購入・管理により、漁船の維持管理経費、人件費、漁具資材等に係る経費削減に取り組む。 <p>④漁業経営セーフティネット構築事業の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃油価格の高騰に備え、漁協は漁業者の漁業経営セーフティネット構築事業への加入を千葉県漁連等と推進する。 |
| 活用する支援措置等 | <ul style="list-style-type: none"> 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（浜の担い手漁船リース事業） 競争力強化型機器導入緊急対策事業 漁業経営セーフティネット構築事業 経営体育成総合支援事業（長期研修など） 水産物ブランド向上支援事業（県） 漁業の担い手確保・育成総合対策事業（新規漁業者確保定着支援事業）（県） |

2年目（令和4年度）所得向上率（基準年比）2.9%

| | |
|--------------|---|
| 漁業収入向上のための取組 | <p>①漁業生産の安定</p> <ul style="list-style-type: none"> 漁協は、「九十九里集団操業指導調査船くろしお運営委員会」の事務局として運営委員会を開催し、引き続き適切な運営を行う。 中型まき網漁船は、指導調査船くろしおからの漁海況情報等を随時把握できる体制を引き続き維持し、効率的な操業の取組を維持する。 漁協はいわし船びき網漁業を自営事業として周年操業に取り組む。 貝桁網漁業者は、輪番制による効率的な共同操業体制を維持する。 漁協及び中型まき網漁業者は、九十九里漁業協同組合資源管理計画に基づく取組や漁獲可能量を遵守し、引き続き資源管理に取り組むとともに、中型まき網漁業者は地元関係漁業者との申し合わせによる「操業や水揚げ方法の自主管理」に取り組むことで漁場秩序を維持し、イワシ類の生産量を維持する。 貝桁網漁業者は、新たな「九十九里貝類資源管理指針」に基づき、ハマグリ等の禁漁区、小型貝の移植放流、漁獲量規制等の具体的な取り組みを検討する。 <p>②品質管理の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 漁協は、卸売市場における HACCP の考え方を取り入れた衛生管理マニュアルを状況に応じて見直し、衛生管理の高度化に取り組む。 中型まき網漁業者は、コンテナパックの漁獲物に対し適切に氷を使用することにより、高鮮度な水産物の水揚げに取り組む。 貝桁網漁業者は、9月と10月に曳網速度を抑えた操業を実施し、舌切れ |
|--------------|---|

| | |
|----------------------|--|
| | <p>を抑えるとともに、船上及び陸上での選別を徹底し、割貝などの混入を減らし品質の向上を図る。</p> <p>③消費拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、漁協の直売所「おさかな新鮮大使」において、取扱水産物の種類を現在の10品目から15品目へと商品ラインナップを50%程度増やし、販売量を増やす。また、販売強化期間の設定等のPRや千葉ブランド水産物に認定された「地はまぐり」のレシピ等の配布を継続し、認知度向上を図る。 ・漁協は、インターネット、地元広報紙や観光雑誌などの媒体を利用した情報発信を引き続き行い、産業まつりなどのイベント等で九十九里産水産物の認知度を高め、消費の増大を目指す。 ・漁協及び漁業者は、地元の小学校等と協力し、引き続き水産教室において地元の漁業や食べ方等を紹介することで、地元水産物への親近感をもってもらう。 <p>④新規漁業就業者及び中核的漁業者等の確保と育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、千葉県、千葉地域漁業担い手確保・育成支援協議会及び九十九里町と連携して、国及び県の研修事業を活用し、短期研修や長期研修を行うことで後継者を確保するとともに、新規漁業就業者が参入しやすい環境を整備し、着業を促進する。 ・漁協は、技術習得のための勉強会や他地区漁業者との意見交換等の漁業士会活動等を通じ地元の中核となる漁業者を育成する。 |
| <p>漁業コスト削減のための取組</p> | <p>①操業の効率化による経費節減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中型まき網の漁業者は、操業指導調査船くろしおからの正確な漁海況情報に基づく、効率的な操業を維持することにより、魚群探索のための燃料費を節減する。 ・貝桁網漁業者は、共同操業、水揚げ物のプール制による効率的な操業を維持することにより、燃料費他経費の縮減を図る。 <p>②省エネ・収益向上型の漁船及び機器類の導入、省燃油活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（漁船リース事業）等を活用して、漁船船体や機関機器類の更新及び漁具等を導入し、操業の効率化、省力化と共に燃費の向上を図る。 ・中型まき網漁業者は、操業の効率化に向け、次期船体等の検討を継続する。 ・漁業者は、引き続き定期的な船底清掃（付着物除去と塗装）、船内積載物の整理、減速航行の徹底等を実施して燃油消費量を削減する。 <p>③協業化による経費の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まき網漁業では漁具、資材等の共同購入・管理により、漁船の維持管理経費、漁具資材等に係る経費削減に継続的に取り組む。 |

| | |
|-----------|--|
| | <p>④漁業経営セーフティネット構築事業の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 燃油価格の高騰に備え、漁協は漁業者の漁業経営セーフティネット構築事業への加入を千葉県漁連等と推進する。 |
| 活用する支援措置等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（浜の担い手漁船リース事業） ・ 競争力強化型機器導入緊急対策事業 ・ 漁業経営セーフティネット構築事業 ・ 経営体育成総合支援事業（長期研修など） ・ 水産物ブランド向上支援事業（県） ・ 漁業の担い手確保・育成総合対策事業（新規漁業者確保定着支援事業）（県） |

3年目（令和5年度）所得向上率（基準年比）5.8%

| | |
|--------------|--|
| 漁業収入向上のための取組 | <p>（1）収入向上の取組</p> <p>①漁業生産の安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁協は、「九十九里集団操業指導調査船くろしお運営委員会」の事務局として運営委員会を開催し、引き続き適切な運営を行う。 ・ 中型まき網漁船は、指導調査船くろしおからの漁海況情報等を随時把握できる体制を引き続き維持し、効率的な操業に取り組む。 ・ 漁協は、自営事業としていわし船びき網漁業の周年操業に取り組む。 ・ 貝桁網漁業者は、輪番制による効率的な共同操業体制を維持する。 ・ 漁協及び中型まき網漁業者は、九十九里漁業協同組合資源管理計画に基づく取組や漁獲可能量を遵守し、引き続き資源管理に取り組むとともに、中型まき網漁業者は地元関係漁業者との申し合わせによる「操業や水揚げ方法の自主管理」に取り組むことで漁場秩序を維持し、イワシ類の生産量を維持する。 ・ 貝桁網漁業者は、新たな「九十九里貝類資源管理指針」に基づき、ハマグリ禁漁区、小型貝の移植放流、漁獲量規制等の具体的な取り組みを試行する。 <p>②品質管理の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漁協は、卸売市場における衛生管理マニュアルを状況に応じて見直し、衛生管理の高度化に取り組む。 ・ 中型まき網漁業者は、コンテナパックの漁獲物に対し適切に氷を使用することにより、引き続き高鮮度な水産物の水揚げに取り組むとともに、水産加工業者と協議し、高鮮度水産物を使用した地元名産品等の検討を行う。 ・ 貝桁網漁業者は、9月と10月に曳網速度を抑えた操業を実施し、舌切れを抑えるとともに、船上及び陸上での選別を徹底し、割貝などの混入を減らし品質の向上を図る。 |
|--------------|--|

| | |
|----------------------|--|
| | <p>③消費拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、直売所「おさかな新鮮大使」において、引き続き、取扱い水産物のラインナップを随時見直し、販売量を増やす。また、販売強化期間の設定等の取組を継続し、HPやレシピ等の配布を継続し、認知度向上を図る。 ・漁協は、インターネット、地元広報紙や観光雑誌などの媒体を利用した情報発信を引き続き行い、地元イベント等で九十九里産水産物の認知度を高め、消費の増大を目指す。 ・漁協及び漁業者は、地元の小学校等と協力し、引き続き水産教室において地元の漁業や食べ方等を紹介することで、地元水産物への親近感をもってもらう。 <p>④新規漁業就業者及び中核的漁業者等の確保と育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、千葉県、千葉地域漁業担い手確保・育成支援協議会及び九十九里町と連携して、国及び県の研修事業を活用し、短期研修や長期研修を行うことで後継者を確保するとともに、新規漁業就業者が参入しやすい環境を整備し、着業を促進する。 ・漁協は、技術習得のための勉強会や他地区漁業者との意見交換等の漁業士会活動等を通じ地元の中核となる漁業者を育成する。 |
| <p>漁業コスト削減のための取組</p> | <p>①操業の効率化による経費節減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中型まき網の漁業者は、操業指導調査船くろしおからの正確な漁海況情報に基づく、効率的な操業を維持することにより、魚群探索のための燃料費を節減する。 ・貝桁網漁業者は、共同操業、水揚げ物のプール制による効率的な操業を維持することにより、燃料費他経費の縮減を図る。 <p>②省エネ・収益向上型の漁船及び機器類の導入、省燃油活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（漁船リース事業）等を活用して、漁船船体や機関機器類の更新及び漁具等を導入し、操業の効率化、省力化と共に燃費の向上を図る。 ・中型まき網漁業者は、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業の活用に向け、中核的漁業者の認定を受ける。 ・漁業者は、定期的な船底清掃（付着物除去と塗装）、船内積載物の整理、減速航行の徹底等を実施して燃油消費量を削減する。 <p>③協業化による経費の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まき網漁業では漁具、資材等の共同購入・管理により、漁船の維持管理経費、漁具資材等に係る経費削減に取り組む。 <p>④漁業経営セーフティネット構築事業の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃油価格の高騰に備え、漁協は漁業者の漁業経営セーフティネット構築事 |

| | |
|-----------|--|
| | 業への加入を千葉県漁連等と推進する。 |
| 活用する支援措置等 | <ul style="list-style-type: none"> ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（浜の担い手漁船リース事業） ・競争力強化型機器導入緊急対策事業 ・漁業経営セーフティネット構築事業 ・経営体育成総合支援事業（長期研修など） ・水産物ブランド向上支援事業（県） ・漁業の担い手確保・育成総合対策事業（新規漁業者確保定着支援事業）（県） |

4年目（令和6年度）所得向上率（基準年比）8.0%

| | |
|--------------|--|
| 漁業収入向上のための取組 | <p>（1）収入向上の取組</p> <p>①漁業生産の安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、「九十九里集団操業指導調査船くろしお運営委員会」の事務局として運営委員会を開催し、引き続き適切な運営を行う。 ・中型まき網漁船は、指導調査船くろしおからの漁海況情報等を随時把握できる体制を引き続き維持し、効率的な操業に取り組む。 ・漁協は、引き続き、いわし船びき網漁業の周年操業に取り組む。 ・貝桁網漁業者は、輪番制による効率的な共同操業体制を維持する。 ・漁協及び中型まき網漁業者は、九十九里漁業協同組合資源管理計画に基づく取組や漁獲可能量を遵守し、引き続き資源管理に取り組むとともに、中型まき網漁業者は地元関係漁業者との申し合わせによる「操業や水揚げ方法の自主管理」に取り組むことで漁場秩序を維持し、イワシ類の生産量を維持する。 ・貝桁網漁業者は、「九十九里貝類資源管理指針」に基づき、新たな資源管理措置に向けた漁業者間調整を行う。 <p>②品質管理の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、卸売市場における衛生管理マニュアルを状況に応じて見直し、衛生管理の高度化に取り組む。 ・中型まき網漁業者は、コンテナパックの漁獲物に対し適切に氷を使用することにより、引き続き高鮮度な水産物の水揚げに取り組むとともに、水産加工業者と協議し、高鮮度水産物を使用した地元名産品の試作を行う。 ・貝桁網漁業者は、9月と10月に曳網速度を抑えた操業を実施し、舌切れを抑えるとともに、船上及び陸上での選別を徹底し、割貝などの混入を減らし品質の向上を図る。 <p>③消費拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、県が認定する「千葉ブランド水産物」について、既に認定を受け |
|--------------|--|

| | |
|----------------------|--|
| | <p>ている「九十九里産地はまぐり」の認定期間満了に伴い、認定時期の見直し（11月～8月を通年）を検討し、再認定を申請する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、直売所「おさかな新鮮大使」において、引き続き、取扱い水産物のラインナップを随時見直し、販売量を増やす。また、販売強化期間の設定等の取組を継続し、HPやレシピシピ等の配布を継続し、認知度向上を図る。 ・漁協は、インターネット、地元広報紙や観光雑誌などの媒体を利用した情報発信を引き続き行い、地元イベント等で九十九里産水産物の認知度を高め、消費の増大を目指す。 ・漁協及び漁業者は、地元の小学校等と協力し、引き続き水産教室において地元の漁業や食べ方等を紹介することで、地元水産物への親近感をもってもらう。 <p>④新規漁業就業者及び中核的漁業者等の確保と育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、千葉県、千葉地域漁業担い手確保・育成支援協議会及び九十九里町と連携して、国及び県の研修事業を活用し、短期や長期研修を行うことで後継者を確保するとともに、新規漁業就業者が参入しやすい環境を整備し、着業を促進する。 ・漁協は、技術習得のための勉強会や他地区漁業者との意見交換等の漁業士会活動等を通じ地元の中核となる漁業者を育成する。 |
| <p>漁業コスト削減のための取組</p> | <p>①操業の効率化による経費節減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中型まき網の漁業者は、操業指導調査船くろしおからの正確な漁海況情報に基づく、効率的な操業を維持することにより、魚群探索のための燃料費を節減する。 ・貝桁網漁業者は、共同操業、水揚げ物のプール制による効率的な操業を維持することにより、燃料費他経費の縮減を図る。 <p>②省エネ・収益向上型の漁船及び機器類の導入、省燃油活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（漁船リース事業）等を活用して、漁船船体や機関機器類の更新及び漁具等を導入し、操業の効率化、省力化と共に燃費の向上を図る。 ・中型まき網漁業者は代船の情報収集を行うとともに、次期代船の設計の着手を検討する。 ・漁業者は定期的な船底清掃（付着物除去と塗装）、船内積載物の整理、減速航行の徹底等を実施して燃油消費量を減らす。 <p>③協業化による経費の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まき網漁業では漁具、資材等の共同購入・管理により、漁船の維持管理経費、漁具資材等に係る経費削減に取り組む。 <p>④漁業経営セーフティネット構築事業の活用</p> |

| | |
|-----------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・燃油価格の高騰に備え、漁協は漁業者の漁業経営セーフティネット構築事業への加入を千葉県漁連等と推進する。 |
| 活用する支援措置等 | <ul style="list-style-type: none"> ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（浜の担い手漁船リース事業） ・競争力強化型機器導入緊急対策事業 ・漁業経営セーフティネット構築事業 ・経営体育成総合支援事業（長期研修など） ・水産物ブランド向上支援事業（県） ・漁業の担い手確保・育成総合対策事業(新規漁業者確保定着支援事業)（県） |

5年目（令和7年度）所得向上率（基準年比）10.2%

| | |
|--------------|---|
| 漁業収入向上のための取組 | <p>（1）収入向上の取組</p> <p>①漁業生産の安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、「九十九里集団操業指導調査船くろしお運営委員会」の事務局として運営委員会を開催し、引き続き適切な運営を行う。 ・中型まき網漁船は、指導調査船くろしおからの漁海況情報等を随時把握できる体制を引き続き維持し、効率的な操業に取り組む。 ・漁協は、引き続き、いわし船びき網漁業の周年操業に取り組む。 ・貝桁網漁業者は、輪番制による効率的な共同操業体制を維持する。 ・漁協及び中型まき網漁業者は、九十九里漁業協同組合資源管理計画に基づく取組や漁獲可能量を遵守し、引き続き資源管理に取り組むとともに、中型まき網漁業者は地元関係漁業者との申し合わせによる「操業や水揚げ方法の自主管理」に取り組むことで漁場秩序を維持し、イワシ類の生産量を維持する。 ・貝桁網漁業者は、新たな「九十九里貝類資源管理指針」に基づき、漁協内での意見調整を図る。 <p>②品質管理の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、卸売市場における衛生管理マニュアルを状況に応じて見直し、衛生管理の高度化に取り組む。 ・中型まき網漁業者は、コンテナパックの漁獲物に対し適切に氷を使用することにより、引き続き高鮮度な水産物の水揚げに取り組むとともに、水産加工業者と協議し、高鮮度水産物を使用した地元名産品の試験販売を直売所等で行う。 ・貝桁網漁業者は、9月と10月に曳網速度を抑えた操業を実施し、舌切れを抑えるとともに、船上及び陸上での選別を徹底し、割貝などの混入を減らし品質の向上を図る。 <p>③消費拡大</p> |
|--------------|---|

| | |
|----------------------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、直売所「おさかな新鮮大使」において、引き続き、取扱い水産物のラインナップを随時見直しし、販売量を増やす。また、販売強化期間の設定等の取組を継続し、HPやレシピ等の配布を継続し、認知度向上を図る。 ・漁協は、インターネット、地元広報紙や観光雑誌などの媒体を利用した情報発信を引き続き行い、地元イベント等で九十九里産水産物の認知度を高め、消費の増大を目指す。 ・漁協及び漁業者は、地元の小学校等と協力し、引き続き水産教室において地元の漁業や食べ方等を紹介することで、地元水産物への親近感をもってもらう。 <p>④新規漁業就業者及び中核的漁業者等の確保と育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、千葉県、千葉地域漁業担い手確保・育成支援協議会及び九十九里町と連携して、国及び県の研修事業を活用し、短期研修や長期研修を行うことで後継者を確保するとともに、新規漁業就業者が参入しやすい環境を整備し、着業を促進する。 ・漁協は、技術習得のための勉強会や他地区漁業者との意見交換等の漁業士会活動等を通じ地元の中核となる漁業者を育成する。 |
| <p>漁業コスト削減のための取組</p> | <p>①操業の効率化による経費節減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中型まき網の漁業者は、操業指導調査船くろしおからの正確な漁海況情報に基づく、効率的な操業を維持することにより、魚群探索のための燃料費を節減する。 ・貝桁網漁業者は、共同操業、水揚げ物のプール制による効率的な操業を維持することにより、燃料費他経費の縮減を図る。 <p>②省エネ・収益向上型の漁船及び機器類の導入、省燃油活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（漁船リース事業）等を活用して、漁船船体や機関機器類の更新及び漁具等を導入し、操業の効率化、省力化と共に燃費の向上を図る。 ・中型まき網漁業者は代船の購入又は建造に着手する。 <p>③協業化による経費の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まき網漁業では漁具、資材等の共同購入・管理により、漁船の維持管理経費、漁具資材等に係る経費削減に取り組む。 <p>④漁業経営セーフティネット構築事業の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃油価格の高騰に備え、漁協は漁業者の漁業経営セーフティネット構築事業への加入を千葉県漁連等と推進する。 |
| <p>活用する支援措置等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（浜の担い手漁船リース事業） ・競争力強化型機器導入緊急対策事業 ・漁業経営セーフティネット構築事業 |

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・経営体育成総合支援事業（長期研修など） ・水産物ブランド向上支援事業（県） ・漁業の担い手確保・育成総合対策事業(新規漁業者確保定着支援事業)（県） |
|--|---|

(4) 関係機関との連携

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・中型まき網の代船の検討については、国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 神栖拠点の助言・指導を仰ぎながら検討を進める。 ・高鮮度水産物を使用した地元名産品の試作について、水産総合研究センターに技術的な助言や指導を受け、検討を進める。 ・取組の効果が十分出現されるよう、行政（千葉県、九十九里町）、系統団体（千葉県漁業協同組合連合会）との連携を図りながら実施する。 ・地元水産物の PR や販売促進については、近隣の市町村や流通業者、地元飲食業、宿泊業などの観光産業とも連携し、地域の活性化にも資する取組を進める。 ・新規就業者支援の事業活用にあたっては、県水産課、千葉県地域漁業担い手確保・育成支援協議会と連携する。 |
|---|

4 目標

(1) 所得目標

| | | | |
|---------------|-----|-----------------|---|
| 漁業所得の向上 10%以上 | 基準年 | 平成 27 年度～令和元年度： | |
| | | 漁業所得（地区総額） | 円 |
| | 目標年 | 令和 7 年度： | |
| | | 漁業所得（地区総額） | 円 |

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

| |
|--|
| |
|--|

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

| 事業名 | 事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性 |
|------------------------------------|--|
| 競争力強化型機器等導入緊急対策事業 | 内容：生産性の向上や省力・省コスト化に資する漁業用機器等を導入し、漁業コストの削減をはかり、漁業所得の向上を図る 関係性：中核的漁業者等の確保と育成、漁業コストの削減 |
| 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（浜の担い手漁船リース緊急事業） | 内容：中核的漁業者への漁船リースの取り組みを支援し、経営体質を強化して漁業所得の向上を図る 関係性：新規漁業就業者及び中核的漁業者等の確保と育成、漁業コストの削減 |
| 漁業人材育成総合支援事業 | 内容：地域で次世代の漁業の担い手となる新規漁業者の育成と確保を行い漁業所得の向上を図る。 関係性：新規漁業就業者及び中核的漁業者等の確保と育成 |
| 漁業経営セーフティネット構築事業 | 内容：燃油の高騰に対する対策として取り組み経営の安定を図る 関係性：燃油急騰時における経営支援 |
| 省燃油活動推進事業 | 内容：船底清掃の励行、省エネ航行により燃油使用量を削減する。 関係性：漁業経費の削減 |
| 水産業成長産業化沿岸地域創出事業（新リース事業） | 内容：必要な船舶や漁具の入手を行う。 関係性：資源管理の推進、魚価向上 |
| 水産物販売流通消費総合対策事業（県） | 内容：地域水産物の高付加価値化やブランド化の推進に係る取組への支援 関係性：販売体制強化の取組で活用 |
| 千葉の農林水産物輸出促進事業（県） | 内容：千葉県産の農林水産物やその加工品を輸出する取組に対する支援 関係性：漁業者団体や漁協が行う輸出に係る取組で活用 |
| 新規漁業者確保定着支援事業（県） | 内容：新規就業者の確保・育成を目的とした体験、研修等段階に応じた支援 関係性：中核的に担い手の確保・育成の取組で活用 |

※関連事業には、活用を予定している国（水産庁以外を含む）、地方公共団体等の補助金・基金等を記載。ただし、本欄への記載をもって、事業の活用を確約するものではない。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。